

グループ活動の活性化へのプロセス

本授業におけるリーダーを中心としたグループ活動は、英語の授業でのみ扱う取組という訳ではなく、以下のような学級や学年の取組を基盤として、実践を行っています。そして、今後、生徒が英語の授業はもちろん、学級や学年・学校での様々な教育活動でグループ活動に取り組み、試行錯誤を繰り返すことで、より良い活動に発展すると期待しています。

1 グループ活動と学級での活動との関わり

① 学級目標

本学級の学級目標は生徒の話合いを通して、「Love, Smile and Challenge」と決定しました。この学級目標は、「一致団結」や「心ひとつに」といった抽象的な文言ではなく、学級の生徒全員が学校生活に居場所を感じ、自己肯定感をもって、成長に向かうという学級における全活動の最大の目的に沿って話合いを重ねた結果、生徒が導き出した目標です。そのことを尊重し、授業中に相手や他者を尊重しながら (Love)、前向きな姿勢で (Smile)、言語活動や自己課題に取り組むこと (Challenge) を生徒に意識させるため、学級目標を用いた声掛けを行っています。そうすることで、授業はもちろん、あらゆる活動において、生徒たちが主体的に、かつ協働的に活動できる雰囲気醸成できると考えます。



② 話合い活動

本学級の話合い活動では、ジャンケンや多数決で意見を決定せずに、可能な限り全員が納得できる合意形成を図るよう指導しています。また、多様な意見を取り入れるために、発散・収束のプロセスについても指導し、話合い活動に取り組みさせています。授業におけるグループ活動においても、英語が得意な生徒だけが主導権をもつのではなく、苦手な子なりの意見を取り入れたり、正解を見つける活動ではなく、表現を工夫したりする活動になると期待できます。



③ リーダー育成

授業でグループ活動を行うに当たり、リーダーを設定しています。まずはリーダーが自分のグループの進捗などを管理したり、班員の活動を支援したりすることが、個々の生徒が主体的に活動するための素地を作ることができると考えるからです。リーダーのマニュアルについては、全生徒に配布していますが、リーダーの育成のために、授業の前後にリーダーの生徒を集め、学級の様子なども踏まえながら、グループ活動の運営について指導しています。



2 グループ活動と学年・学校での活動との関わり

① 学年方針

本学年は、「安心・安全」を学年経営の大きな柱としており、教師間・対生徒間でコミュニケーションを取りながら、生徒の教育活動の充実を目指しています。そういった学年としての環境づくりが授業における表現活動での安心感に繋がり、間違いを恐れず表現する素地作りに繋がると考えています。



② 他教科の授業

1つの授業だけで教育活動は成り立つものではありません。そこで、生徒の様子について他教科の教員との頻繁に情報共有したり、各教科の単元配列を見つめる研修を行ったり、実際に他教科と横断的に単元設計したりするなど試行錯誤をしています。このように、他教科との連携を図ることで、生徒に対して一貫した指導ができ、また、生徒の教室や授業の枠を越えて試行錯誤するようになると期待しています。



③ 学校行事等

本学年では、行事の際に、実行委員やリーダーを任命し、生徒たちが主体的に企画・運営することができる機会を可能な限り設定しています。また、中高一貫校であるため、高校生が企画・運営する様子を間近に見ることができ、自分たちが目指すべき姿を意識しやすい環境にあります。こういった機会やモデルの存在は、生徒が主体的に学習に向かう際のヒントとなると考えます。



3 グループ活動の実践

① オリエンテーション

グループ活動に限りませんが、生徒には授業設計や授業における諸活動の意義や意図について、社会情勢や諸調査の結果等を踏まえて、オリエンテーションを実施しています。英語の授業で活動していることがいかに社会に繋がるのかを理解してもらうことで、単に知識・技能の習得で終わらない、英語における見方・考え方を発揮することができる授業デザインが実現できると考えます。

② 活動の練習

③で示すような実際の活動を行う前に、学級の実態からは随分と取り組みやすい課題を生徒に与え、ルールや役割の理解を促しています。または、あえて日本語の文脈などを用いて活動させることもあります。特に、ジグソー学習など取り入れた長文読解や議論などの活動を扱うと、グループ内での意見の共通点や相違点、他のグループとの関わりなどを通して、グループ活動のおもしろさや協力することの意義を感じやすいと思います。

③ 活動の実践

これまで述べたことを踏まえることで、いよいよ活動の実践に移ることができると考えます。そうやって活動を実践することで、リーダーを中心としつつも、個々が自走し、協力し、互いの考えを組み合わせたり補い合ったりしながら、よりよい考えにたどり着くプロセスの意義を学ぶことができると期待しています。活動を実践した後は、リーダーとの打ち合わせや、活動へのてこ入れを繰り返し、さらなる活動の充実を図っていきたいと思います。



学年・学級の実践については、上述したもの以外にも関連するものは当然あります。カリキュラム・マネジメントの視点や生徒指導提要の視点なども踏まえ、生徒の主体性を発揮できるような授業作りに今後も励んでいきたいと思っています。